

ATACニュース創刊のごあいさつ

財団法人 大阪科学技術センター
ATAC運営委員長 五百藏 弘典



私どもATAC（アタック）は、(財)大阪科学技術センターの中堅・中小企業技術振興事業の一環として活動する技術コンサルティンググループですが、昨年4月に設立十周年を迎えました。この間、企業の皆様方を悩ます多種多様な課題の解決に取り組み、400を超す案件を成功裏に終了するまでに育って参りました。これもひとえに皆様方の暖かいご支援の賜物と感謝いたしております。

このご支援に応え、より一層お役に立てるATACとなるために、多くの新たな活動を企画し、進めておりますが、その一端としてこの「ATACニュース」を発刊いたします。

「ATACニュース」の目的のひとつは、講演会やセミナーなどのATACの企画する行事や、最新の技術トレンドなど皆様のお役に立つニュースをお知らせすることですが、もう一つの重要な目的は、「ATACニュース」に設ける「読者の皆様との交流頁」を通じて、中堅・中小企業の経営者の方々のご意見をお聞きし、ATACの運営や活動に生ずることにあります。読者の皆様には、本ニュースのご愛読と共に、同「交流頁」のご活用をお願いいたします。

また、ATAC会員は、新しい企画を進めるばかりではなく、常日頃、下の写真のように、月2回、一堂に会して会員の研鑽を進めると共に、顧客の皆様がたのご意見や課題に対する対策を真剣に検討し、一層のご期待に応えるべく努力を重ねております。今後とも、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願いいたします。



ATAC研究会での研鑽

ATAC ニュース 創刊記念対談

対談者

太陽刷子株式会社
(財)大阪科学技術センターATAC

社長 小倉 義生氏
副会長 荒川 守正

場所 (財)大阪科学技術センター会議室

日時 平成14年8月30日午後5時

このたびのATACニュース創刊を記念して、今年12年目を迎えたATAC事業の企画から設立までの苦労はもとより、その後の成長に献身的な努力を続けられATACの生みの親であり育ての親として今日まで、ATACとともに歩んでこられたお二人に対談していただくことにしました。

約1時間の対談を収録し、ATACニュース編集委員が要点をまとめました。

荒川：本日はお忙しいところ、貴重なお時間を割いていただき有難うございます。大阪科学技術センターの30周年記念事業として平成3年4月にスタートしたATACの設立当初から現在に至るまで、大変お世話になっている小倉社長にATACの今後も含めてお話を伺いたいと対談を企画した次第です。

小倉：ATACはMATE研究会（大阪科学技術センターの中小企業異業種交流会）の提案で設立されましたが、当時私がMATE研究会の代表幹事をしており、若手育成・表彰制度などの企画もありましたが、OB技術者のさまざまなノウハウを中小企業に生かそうというATAC設立の案にすんなり決

まり、計算どおりうまくいかなかったらどうしようという責任を感じました。

荒川：ATACの発足以来、今日までたいへんお世話になりましたが、当初のがむしゃらさが薄れているようにも思いますが、小倉社長から見られてどうですか。

小倉：私の会社はATAC発足以来、途中1~2年途切れただけで、ずっとお世話になっていますが、今までは個人的なお付き合いの形だったのが、だんだん業務も拡大してくると、これからATACはどうされるのか気になっています。このまま拡大されて

いくと、顧客の中で同業者とのぶつかりも出てくるでしょう。

荒川：ATAC会員数は30人以上に拡大することは考えていません。そのためATAC・MATE奈良やATAC・MATE岡山ができ、次はATAC・MATE和歌山ができます。それを含めるとATACの活動は拡大しますが、本体は増やしません。

同業他社からの引き合いもいろいろ来ていますが、私は同じテーマならお断りしますが、テーマが違えばお受けしても良いと考え、ルールを作っています。小倉：そういうルールがあれば、われわれも安心してお願いできます。また、30人の規模は増やさないと聞いていますが、後継者の問題はどうか考えておられますか。

荒川：差し当たり後継者の問題もありますが、当分は皆元気ですよ。

小倉：当社へ来ていただいている方も元気で、はりきって仕事を面白くやっていたいのが、一番有り難いことです。技術ばかりでなく、人材教育までやっていたい、満足しています。

荒川：ほかにATACへのご注文はございませんか。

小倉：特にお願いすることはありませんが、ATACにはできるだけ具体的なテーマを出してお願いするようにしています。そうすれば、ATACはすべて解決していただけるので助かっています。

荒川：本日は有難うございました。これからもATACをよろしく願います。（以上）



読者の皆様との交流頁

この頁を読者の皆様とATACとの相互交流に使います。
企業の抱える当面の諸問題について、企業内だけで処理するより、他の企業やATAC等に課題を持ち掛け、他人の知恵や専門知識を利用した方が解決が早いケースが多いので、下記のように『読者の掲示板』と『企業PRコラム』を設けました。この頁を自社の課題解決やPRに利用してください。

読者の 掲示板

新しい事業を計画しているが、機械工場として、500㎡程度の貸工場をさがしています。場所は東大阪市または八尾市。(T社)

射出圧150トンの中古エンブラ射出成型機(電動式)が2台至急入用です。製品取り出しロボットや製品搬送コンベヤ、金型温度自動制御装置等、付属品付きを希望します。(N社)

(この2件は参考例です。これにならって掲示板を利用してください。)

企業 PR コラム

Why? 今、なぜ遠赤外線

服部ヒーティング工業株式会社
代表取締役社長 服部 栄市



当社は1969年、遠赤外線ヒーターと応用製品の専門メーカーとして創業しました。

そして相次ぎオリジナルアイデアの実用化を図り、技術力を磨いてきました。

現在では、最先端技術である半導体や液晶の製造に用いる超精密で超薄型の遠赤外線ヒーターを核テクノロジーに、遠赤外線応用のパイオニアとしてさまざまな産業用、業務用および家庭用のヒーター製品を送り出しており、遠赤外線の源である太陽に感謝しつつ、

いつも“Why”(なぜ)からのモノづくりを目指しています。

現在、ISO9000と14001の同時認証取得のため、ATACにコンサルティングをお願いして社長以下幹部社員が鋭意努力中です。

遠赤外線応用技術のことなら、何でも下記へご相談ください。

●本社 ● 〒534-0011 大阪市都島区高倉町2-3-15
TEL 06-6922-3388代 FAX 06-6925-3355



大嶋 真由子

橋本 千佳

服部 哲男

ATACニュース創刊号に関するご意見、および今後のご要望をどしどしATAC事務局までご連絡ください。

ATAC事務局では左記の3名が対応します。

ATAC事務局

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4
(財)大阪科学技術センター

技術・情報振興部

TEL06-6443-5323 FAX06-6443-5319
e-mail : atac@ostec.or.jp

URL <http://www.ostec.or.jp/tec/atac/index.html>

ATACの内容

本会は長年の経験により独自の技術とノウハウを有する技術者・管理者を結集し、お互いの知恵を出しあい、学習しあい、ネットワークを活用するとともに、中堅・中小企業が抱える国際化、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援することにより中堅・中小企業の発展に資することを目的とする。

～ATAC規約第2条より～

ATACは上記の目的に則り、これまで11年有余にわたり中堅・中小企業の発展のために数々の活動を推進してきました。
その主なものを挙げますと

1. コンサルティング

ATAC活動の大部分を占める業務で図のように中堅・中小企業の抱えるさまざまなテーマについて約400件にのぼるコンサルティング業務を消化してきました。

2. 書籍刊行

中堅・中小企業の発展に役立つため、これまでに刊行した書籍は下記の通りです。

ATACの経営便利帳

現場の課題解決はこうする（中堅・中小企業の業務改善事例）

中堅・中小企業へのATAC提言集

- ① 新商品開発のヒント
- ② ISO9000認証取得の手引き
- ③ ISO14001認証取得の手引き
- ④ 中小企業のためのIT
- ⑤ 材料選択の手引き

3. NASCA^{ナスカ}（産学連携のお手伝い）

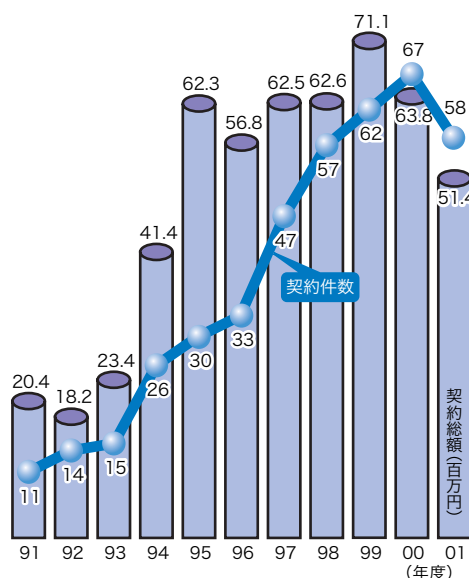
企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

4. 公的支援情報送信サービス

ご希望の企業に、国や府県等による研究開発補助金等の公的支援募集情報をタイムリーに分かりやすくe-mailやFAXで無料配信する業務です。

契約実績の推移

（単位百万円）



編集後記

創刊号の編集を緊張感を抱いて終わることができ、ほっとしています。

ATACをここまで育ててくださった皆様への感謝の心を込めて創刊号にふさわしい内容を盛り込んだつもりですが、読者の皆様の声を早くお聞きしたい気持ちと不安が交錯しているところです。

今後、読者の皆様のお役に立つよう紙面を充実させていきたいと考えていますので、ぜひ本紙に関するご意見・ご要望を事務局かATAC会員にお寄せいただくようお願い申し上げます。